

ひげにあいつとめそうろうすじしわけ

「覚(日銭相勤候筋仕訳)」安政3年(1856)9月

嘉永7年(1854)、安政地震津波発生の前直前に異国船(プチャーチン率いるロシア船ディアナ号)が紀伊水道を通過した事件を契機として、紀州藩では、大船を製造するために藩内の各人から1日1銭ずつの「日銭」を徴収することとなりました。この文書は、津波2年後に津久野浦住民の「日銭」支払能力を報告した記録です。

津久野浦住民125人のうち38%に当たる48人が、本来は村の中間層「中分之筋」だが、津波により難渋して「日銭」の支払能力がなくなった者とされています。村の約4割の住民が、安政地震津波のために経済的に転落したことになります。

* 「日高町津久野の宝永・安政津波記録と紀州藩の「日銭」徴収」の【史料七】